

山道町内会大しめ縄奉納

～五穀豊穰・家内安全を願い～

山道町内会（一戸秀久会長）は8月31日、9月20日～22日のお山参詣に先立ち、弘前市の岩木山神社に町内会で制作した大しめ縄を奉納しました。

山道町内会による大しめ縄の奉納は、記録が残っている1968年（昭和43年）から3年に1度行われており、50年以上の伝統があります。この日は山道町内会の関係者や町民など約80人が参加。参加者たちは長さ約40m、重さ約200kgほどの大しめ縄を掲げ、笛や太鼓で奏でる「登山囃子」に合わせて、「サイギ、サイギ」と独特のかけ声を響かせながら拝殿に向けて参道をゆっくりと上っていました。そして神社に到着後、五穀豊穰などを祈ったあと、拝殿の正面に大しめ縄を取り付けました。



独自の制作方法を 絶やさず継承

大しめ縄は山道町内会の先人が編み出した独自の制作方法です。大しめ縄の制作は、今年の3月の稲わらのミゴ取りから始まり、6月から本格的な制作を開始し、約2カ月かけて編み上げました。



- ① ミゴ取り
- ② ミゴを反物を織るように編み込んでいく
- ③ 中心が太い袋状になるように稲わらを入れる
- ④ ③を3つ組み合わせてひとつの大しめ縄に
- ⑤ 綱打ち